

第4回審議会終了後 委員からのご意見等

参考資料2

1. 意見提出者数 1名

No	意見内容（原文のとおり）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の第3次総合計画をめぐる一連のレビューに当って、難儀な思いをしました。 ・ 総合計画（基本構想、基本計画）あり、まちづくり基本計画ありで、行政の素人である私にはとても分かりにくいものでした。加えて、総合計画審議会条例のミスマッチもあり、理解に大変でした。 ・ こうした地道なレビュー作業が故郷の復活につながるヒントになると思い、なんとかまとめました。思いのほか、時間がかかってしまいました。この程度の文章で1週間ほどもかかってしまいました。 ・ 改めて、我が故郷の生きた心地に焦点を当てると、故郷の復活（再生）は、ひいては日本、世界全体（いわば人類）の持続につながるものと考えています。 ・ 人類の人口減少（＝消滅）から救うのは、人口減少を経済から捉えるのではなく、社会を生きものと考えることが救いにつながりましょう。 ・ 具体的なコメントは、別紙A（1/1）及び別紙B（1/2、2/2）に添付しました。 <p>【添付資料A】R7. 11. 20 期限の質問・意見・感想の提出について（全般）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年11月6日の第4回総合計画審議会で、第3次総合計画基本計画（案）について、市長の諮問に続き、市長退席後、基本計画（案）＜10/30 付資料＞に示す6つの基本政策に対し、テーマ毎に意見を求められました。 ・ 私は、第3次基本構想と第3次基本計画（案）について、何度も資料を読み返しましたが、今一つ相互の関係が理解できませんでした。 ・ 資料を単に送付するだけでなく、審議会の席で、作成者から説明していただきたいかった。過去の審議会はいずれも資料の内容説明がありませんでした。 ・ そこで、私は6つの基本政策全体に関わる質問をしたところ、拒否されました。 ・ また、8/18の本審議会で、第3次基本構想（素案）の賛否を問われた際には、出席者の賛成多数で可決しましたが、反対者は私一人でした。 ・ 反対の理由は、基本構想は市の最上位の計画だとしながらも、人口減少が進む折、税収が減る中で、第3次基本構想（p2）では、今後の市政のビジョンが感じられなかったからです。

No	意見内容（原文のとおり）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ というのも、今、市の美術館建設が話題になっていますが、本来は第2次基本構想や第2次後期基本計画で判断の方向付けがなされていなければならなかったと思います。 ・ 私は美術館建設は悪いことだとは思っていませんが、財政が人口減少でひっ迫していく中で、今、急いで無理して建設すべき案件ではないと考えています。 ・ 第2次基本構想が終わろうとする今（R7年）に降って沸いたような案件です。おそらく、毎年の年次計画で思いついた計画だととらえられても仕方ありません。とても戦略とはいえません。 ・ 以上のことから、前回のR7年8/7期限のレビュー結果と同じく、第3次基本構想は、しかるべき時に一から作り直すべきです。 ・ また、第3次基本計画（案）は、中期計画の意味あいであることから戦術書としての範ちゅうですから、第3次基本計画は本審議会の諮問から外すべきでしょう。 ・ さらに、本条例には国土利用計画（まちづくり基本計画に相当）の諮問もみえますが、本件は都市計画審議会で審議すべきものですから、これも本条例から削除すべきです。 ・ さらに、総合計画審議会の開催通知にも不備がありますので、本条例の改正も必要です。 ・ 戦略の分かる人材確保が急務です。実際19人もの委員は不要です。これまでの審議から受けた印象では、5～6名の戦略に理解できる人材を確保し、期間は2年かけ丁寧な審議を心がけるべきでしょう。 ・ そうした活動が、中野市の将来に向けた底力となりましょう。人材育成は自分の手で！ <p>【添付資料B】R7.11.20期限の質問・意見・感想の提出について（個別）</p> <p>1 第3次総合計画基本構想について</p> <p>(1) 基本構想（p2）の策定趣旨を、戦略ビジョンとしての表現にみ直すべきだ。</p> <p>(2) 基本構想（p3）に総合計画全体の構成と期間を示すが、以下のコメントあり。</p> <p>① 総合計画全体のスケジュールには、R6年・R7年も入れ、基本構想は第2次と第3次をラップさせる。R6～R7年で第3次基本構想を策定する。下位の前期基本計画を参照しながら新しい基本構想をまとめるとなると、初心者の委員も考慮すると、2年はかかる。ただし、本審議会の対象となるのは、基本構想だけで充分であろう。市の将来を託すのだから、じっくり策定する必要がある。</p> <p>② ところで、基本計画は中期計画に、実施計画は年次計画に相当するので、戦略書に非ず。よって、本審議会の諮問を受ける必要はないが、それぞれ、計画の冒頭で基本構想を参照し策定すると明記する。</p>

No	意見内容（原文のとおり）
1	<p>③ 基本構想（p 3）には、本誌の“まちづくり”のための基本理念や目指すべき都市像、その実現に必要な施策展開の大綱を定めるとあるが、基本構想（p 5）には、将来都市「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」を挙げているが、わざわざ新市まちづくり計画（都市建設計画）よりと“注”をつけている。本末転倒ではないか？</p> <p>→市まちづくり基本計画（都市計画マスタープラン編）案（R5年1月）のp49では、定住先は市街地及びその周辺とする意向が最も強いことから、将来都市像として「自然と文明の調和（＝田園都市）」ではないでしょうか？故郷（ふるさと）の歌に代表される緑豊かな豊田地区は定住地として最も低い意向であったと記す。</p> <p>④ 目標人口については、第3次基本構想（p 5）ではそっけなく、目標人口は2033年（R15年）に37,500人以上とだけ記す。その根拠（出典）も記されていない。</p> <p>→既出の市まちづくり基本計画（p 7）にはその出典や3区分別人口の推移を記していて、人口増加からピークを経て、人口減少に転じる状況がよく理解できる。老年人口が増加（長寿化）し、年少人口の減少がみてとれる。年少人口が減れば当然生産年齢人口も減ることになるのは、一目瞭然だ。トータルすると人口減少に至ることがよく理解できる。ここに年少人口の減少は、合計特殊出生率が置換水準（2.07）を割り込むことだ。しかも、2100年には日本の人口は半減し6,300万人、高齢者は4割に達するという。しかも人口の底は見えないという。深刻だ。</p> <p>→従って人口減少を甘くみてはいけない。第3次基本構想を一から作り直すということも、中野市を将来にわたり持続可能な社会とするためにも、社会環境の変化を適格にとらえ、新しいビジョンに向けて舵を切ることです。さもないと、手遅れになります。「緑豊かな…」な都市像は20年も前のこと、豊田村との合併時の話です。今や状況は更に進んでいます。</p> <p>→第3次基本計画（p 5）のNew Nakanoの視点はよいのですが、NN1～NN6は戦略性というよりも3号議員の出身団体の思惑がからんでいるようにみえます。というのも、NN1～NN6には人口減少に伴う農地や農業・産業の課題、不耕作地の増加問題や後継者難といった言葉が入っていません。NN1～NN6の相互関係に人口減少といったキーワードが感じられません。だから、市民には、NN1～NN6のテーマを選んだ理由がわかりません。市の立場から選んだのでしょうか。（3号議員の主張ですかね）</p> <p>2 第3次前期基本計画（案）について</p> <p>(1) 第3次前期基本計画（案）（p 3）でその概要を記すが、この中で（p 4、p 5）施策の全体像を示す中で、基本政策1～6と基本構想のNew Nakanoターゲット（NN1～NN6）とのつき合せをし、戦略ビジョンを装っているが、NN1～NN6は人口減少に伴う戦略観点からの導き出されたものではないと思われるので、Nakanoターゲットとの突き合せはあまり意味がありません。これについても、基本構想を一から作り直すときに基本政策を修正すべきです。</p>

No	意見内容（原文のとおり）
1	<p>(2) 前述したように、基本計画は、戦略から格下げし、戦術扱いとすべきです。ですから、基本計画の冒頭で、基本構想の趣旨を活かして作成する等の明記が必要です。また、本審議会による諮問も必要ありません。市長の責任において作成すべきです。</p> <p>3 戦略の分かる人材の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの審議会を通じ、戦略を理解する人に会ったことがありません。皆、慣例を重視する人たちでした。 ・人口減少対策は慣例ではできません。右往左往しているうちに日はくれます。 ・また、丁寧な議論をすすめるには、委員 19 名は多過ぎます。5～6名でいいでしょう。 ・そのかわり、2年間を使い下位計画も含めて、環境変化を適格にとらえ、将来に役立つ総合計画基本構想を作りましょう。 ・また、まちづくり計画とのマッチングが必要です。本審議会ではこうした横どうしのチェックも必要です。 ・いずれにしても戦略の分かる人材を自らの手で行うことです。20～30年先をみて!!